



片山九郎右衛門 **新能**

天下一新能

◆演目紹介

半能「嵐山 あらしやま」 出演 片山九郎右衛門 宝生欣哉 延岡のこどもたち ほか

帝に仕える臣下が、勅命を受けて吉野から京都の嵐山に移植したサクラの様子を見にくると、美しく咲き誇っている花木に向かって礼拝する老夫婦に会います。臣下は不思議に思い、声をかけると老夫婦は神木である吉野のサクラを移植したのだから嵐山のサクラも神木ですからと語ります。さらに吉野の木守(こもり)の神、勝手(かって)の神が時折この地を訪れているからこそ、嵐山という不穏な地名でも嵐で散らされることなく美しく咲くのだ。その二神こそ私たちがだと去っていきます。夜になると二神が現れ舞を舞います。さらには蔵王権現も現れて光輝く春の盛りを寿ぎます。二神を今回は延岡の子どもたちが演じます。

能「花筐 はながたみ」 出演 片山九郎右衛門 宝生欣哉 延岡のこどもたち ほか

応神天皇の子孫である大跡部(おおあとべ)皇子は越前国の味真野に暮らしていましたが継体天皇として即位することになりました。都に旅立つ前、皇子は寵愛する照日の前に手紙と愛用していた花筐(花籠のこと)を届けます。照日の前は、愛する人の即位を喜びながらも突然の別れに寂しく、悲しい気持ちを抑えきれず手紙と花筐を抱いて里に帰るのですが・・・大和の国玉穂に都を遷都した継体天皇は紅葉見物に出かけると、照日の前が花籠を持った侍女とともに現れ、帝の行列に飛び出します。照日の前は悲しみのあまり正気を失っていたのです。官人にとがめられ、花籠を打ち落とされるのですが、「帝の愛用された花籠を打ち落とすなんて」と泣き伏してしまいます。天皇は花籠を手に取り自分のものであったことを確認すると、照日の前の深い情愛に感動し、正気に戻れば一緒に帰ろうというのでした。

狂言「二九十八 にくじゅうはち」 出演 茂山逸平 ほか

清水寺の観世音に参詣にきた男に「西門の一の階(さざはし)に立った女を妻にせよ」とのお告げがくだされます。お告げにしたがって門前に行くと、本当に衣を被った女が立っています。大喜びした男は「ご夢想のお妻さまか」と尋ねると「つまもなき わが身ひとつの狭衣に袖をかたく独り寝ぞする」と歌で答え、さらに男が住まいを尋ねると「我が宿は春の日奈良の町の内風の当たらぬ里と尋ねよ」と答えます。そこで男は女が春日町で「風の当たらぬ」から外気を遮断して麴などを育てる「室」を意味するとして室町だと言い当てます。さらに春日町は室町の角から何軒目の家かと尋ねると「にく」とだけいうと去っていきます。果たして男は女の家にとどり着き、妻にすることができるのか・・・。

◆演者紹介

片山九郎右衛門 (かたやま くらう えもん)

観世流シテ方。1964年九世片山九郎右衛門=故幽雪(人間国宝)の長男として生まれる。祖母は京舞井上流四世家元の故井上愛子(人間国宝)、姉は五世井上八千代(人間国宝)、幼少より父、八世観世鏡之丞(人間国宝)に師事。各地の能公演のプロデュースなどに意欲的に取り組む。1997年京都府文化賞奨励賞、2003年京都市芸術新人賞、2003年文化庁芸術祭新人賞、2015年芸術選奨文部科学大臣新人賞を受賞。2008年から京都観世会会長、2011年に十世片山九郎右衛門を襲名。



宝生 欣哉 (ほうしょう きんや)

ワキ方下掛宝生流。1967年東京に生まれる。父・宝生閑(人間国宝)および祖父・故宝生弥一に師事。8歳「狸々乱」で初舞台。父譲りの凛としたたずまいと存在感で、高い評価を受けている。海外公演にも多数参加。2000年度芸術選奨文部科学大臣新人賞受賞。2023年能楽界では最年少で人間国宝の認定を受けた。



茂山 逸平 (しげやま いっぺい)

大蔵流狂言師。1979年茂山七五三(人間国宝)の次男として生まれる。祖父四世千作(人間国宝)や父らに師事。1983年「業平餅」の童で初舞台。父や兄・宗彦とともに「お豆腐狂言」の名で知られる茂山千五郎家の中心メンバー。俳優としてNHK朝ドラ「カーネーション」「オードリー」「ごちそうさん」などに出演。重要無形文化財保持者(総合認定)、京都市芸術新人賞、京都府文化奨励賞受賞。



内藤家旧蔵の能狂言面



宮崎県指定有形文化財となっている内藤家旧蔵の能狂言面は、江戸時代を通じて、領内の平和と繁栄を祈願するために毎年開催されていた神事能において使用されていたと考えられる能面です。桃山時代から江戸時代初期にかけて活躍し、技量に優れ、「天下一」の称号を授与された面打師たちによって作られた能面三十点を含む七十二点の能狂言面は、その質と量はもとより、城下町であった延岡の歴史と文化を彷彿とさせる貴重な歴史資料と言えます。

延岡のこどもたちも出演



地元のこどもたちが日本を代表する出演者との共演は大きな特徴です。10年以上にわたって続けられており、地域の歴史文化を後世に繋ぐのはもちろん、日本を代表する伝統文化の継承にも大きな役割を果たしてきています。この公演の監修を務める片山九郎右衛門さんの発案で始められ、これまで子方として重要な役回りを演じるとともに、故片山幽雪さん(人間国宝)とも、連吟や舞等で共演、福岡市の博多座で行われた特別公演「鞍馬天狗」では野村萬斎さんと共演しました。今回で14回連続、16回目となる公演では、「花筐」の継体天皇役、「嵐山」ではサクラを守る二神の役を演じます。また公演の始まりには仕舞や連吟も披露します。片山九郎右衛門さんが直接指導した延岡の「こども能楽プロジェクト」の熱演にもご注目ください。

こども能楽プロジェクト 受講生募集

随時、このプロジェクトに参加するこどもたちを募集しています。次の出演者をめざすこどもたちを待っています。

座席配置図 席位置は変更になる場合があります



入場料

- ◆S席(指定席).....8,000円
- ◆A席(自由席).....5,000円
- ◆A席(自由席・小学生~大学生).....3,000円



主催 NPO法人のべおか天下一市民交流機構 / 延岡市 / 延岡市教育委員会

後援 宮崎県 / 公益財団法人宮崎県観光協会 / 延岡市文化連盟 / 一般社団法人延岡観光協会 / 朝日新聞社 / 毎日新聞社 / 読売新聞西部本社 / 宮崎日日新聞社 / NHK宮崎放送局 / MRT宮崎放送 / UMKテレビ宮崎 / エフエム宮崎 / MCN宮崎ケーブルテレビ / ケーブルメディアワイワイ / 夕刊デイリー新聞社 / FMのべおか

◆お問い合わせ先

NPO法人のべおか天下一市民交流機構(日・火曜日休み)

T E L 0982-33-0248

メール tengaichi@dolphin.ocn.ne.jp

H P http://www.nobeoka-tengaichi.jp